

平成 26 年度工学系共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

所 属	教育施設環境研究センター
研究者(ふりがな)	立花 美緒 (たちばな みお)
タイトル	諸外国の学校建築における教室の構成に関する研究
助 成 名	新任助教研究助成
採択金額	1,000,000 円
<p>研究の背景</p> <p>日本の小中学校は 1949 年の RC 造校舎の標準設計の作成以降、オープンスペースの導入を経て、近年再び学校施設や教室の画一化が指摘されている。海外の教育改革が先行した国々においては、生徒が自ら学ぶ教育が重視され、学級単位の一斉授業のみならず、学級内を小群に分けた演習、プロジェクト形式の授業、チームティーチング等の多様な取組が行われている。こうした教育に対応した小中学校建築では、グループリームや複数の普通教室のまとまりであるクラスターといった、学級とは異なる単位で行う教育を支える領域がみられる。本研究では、普通教室に関連する室の種類や単位の階層性及び配列から諸外国の学校建築の教室の構成の一端を捉えることを目的とする。</p>	
<p>結果と考察</p> <p>建築専門誌、書籍等から事例を収集し分析を行い、スイス・ドイツ・オランダの学校を視察し現況の調査及びヒアリングを行った。</p> <p><b>1. 諸外国の小学校建築の文献調査の実施と分析</b></p> <p>1970 年以降に建築専門誌に掲載された諸外国の小学校 75 校を対象に、平面図、施設概要を収集し、以下を明らかにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室内外にグループリームやワークスペース等の小室を設ける例が比較的多く見られる。</li> <li>・ 共用空間や教室の入口付近のアルコーブに、ワークスペースや PC スペースが設けられており、教室のみならず共用空間やアルコーブも、多様な教育を支える領域として、また日常的な交流の場として位置付けられている。</li> <li>・ 日本において現在もその是非が議論されている教室と共用部の間に壁がないオープン教室の事例は少数のみであった。</li> <li>・ 教室のクラスターは小室や共有空間といった学級とは異なる単位で行う教育を支える領域を内包するものが過半を占め、教室と廊下のみのものであるものより多い。</li> <li>・ 室やクラスター等の単位による複雑な階層を持つ事例がある一方で、比較的単純な 1 つの階層をもつ事例において、最も多様なクラスターの種類や配列がみられる。</li> <li>・ 環状、分岐に配列した事例は、学校の核となる共用空間や中庭等を有する事例が多い。</li> </ul> <p><b>2. スイス・ドイツ・オランダの小中学校建築の現況調査とヒアリング</b></p> <p>1 で特徴的な傾向が観察された小学校と、予備調査として中学校を加えた計 11 校(スイス 3 校、ドイツ 4 校、オランダ 4 校)の現況を調査し、校長もしくは教師にヒアリングを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室と共用空間を内包するクラスターでは、教室における授業を中心に、学級内を小群に分ける際に共用空間を活用する小学校や、共用空間における自習形式の授業を中心に、イントロダクションとして短時間のみ教室を利用する中学校等、多様な授業形式がある。</li> </ul>	

- ・ 学校の核となる共用空間には、日常的な授業のワークスペースのみならず、カフェスペース、舞台等が設置され、様々なかたちで活用されている。また、他学年の生徒同士や生徒と教師の会話が観察され、こうした領域を設けることは、今後日本で増加する可能性が高い小中一貫校・併設校の計画においても重要な視点となると考えられる。
- ・ 教室間の可動間仕切りを開けて合同で授業を行う、共有の小室を設ける等、オープンスクールとは異なる教室のフレキシビリティが新しい学校で重視されている。
- ・ オランダのコミュニティスクールでは、学校のスペースを借りているセラピー、スポーツジム、語学教室等を生徒や教師が利用している。



写真1：自習形式の授業を行う教室のクラスター

写真2：学校の核となる共用空間

結論と今後の課題

諸外国の小学校建築における教室の構成の一端を文献調査の実施と分析により明らかにした。更に特徴的な構成を持つ事例について、現地調査とヒアリングを行った。同時に行った中学校建築の予備調査により、類似したクラスターであっても、小学校建築と中学校建築では運用の方法が異なることが予測されるため、中学校建築について同様に研究を継続する予定である。学校の核となる共用空間は、調査対象校以外の学校においても多様な利用がされていると考えられ、事例数を増やし、共用空間内の要素や周辺の室の配列と利用方法について調査、検討することが今後の課題である。また毎年多数の学校が廃校となっている日本において、コミュニティスクールのように地域社会とともにある学校の運営方法を提示することは重要な課題として挙げられる。

使用内訳書

費目	内訳	金額
備品1	デジタル一眼レフカメラ	299,160
備品2		
消耗品	書籍他	411,068
旅費	日本建築学会大会(神戸) 海外調査(スイス, ドイツ, オランダ)	289,772
その他		
合計		1,000,000

記入上の注意：

備品は、品名ごとに記入。

差額が生じた場合は、消耗品で調整。

消耗品を購入しなかった場合は、経費の差額と補填した予算科目名を合計額の内訳欄に記入。